

高齢者福祉計画・（第9期）介護保険事業計画における施設整備方針検討経過等について

1 施設整備方針検討から方針案策定まで

(1) 現状認識及び課題等の確認

○高齢者人口

- ・第9期期間中に、いわゆる団塊の世代すべてが75歳以上となる令和7年（2025年）を迎える。
- ・当市の高齢者人口は令和3年以降減少に転じたが、75歳以上人口は令和12年頃まで増加すると見込まれ、その後も85歳以上人口の増加が見込まれる。

○世帯構成の変容

- ・当市の世帯数は人口減少とは逆に増加しており、核家族化の進展と推察する。
- ・独居高齢者世帯数、複数高齢者世帯数についても、年々増加している。

○認定者数、出現率等

- ・要介護・要支援の認定率（出現率）は、総合事業への移行や介護予防の取組の推進などにより、ここ4年ほどは低下してきたが、今後は75歳以上の高齢者人口の増加に伴い上昇することが見込まれる。

○特養の入所待機者数

- ・南信州広域連合が調整する特別養護老人ホームの入所待機者は、平成27年の制度改正時に一旦減少したが、その後再度増加し続けている。
- ・世帯構成の変容や、在宅介護を行っている家族が介護負担感などから施設サービスを希望することが、入所待機者数特養の増加に影響していると推察する。

(2) 次期期間における施設整備意向調査

○調査実施期間：令和5年5月～7月

○回答件数：10件

○種別等内訳

内容等種別	件数
特別養護老人ホームの短期入所から（本）入所への転換及び増設	3件
特別養護老人ホームの新設又は増設	1件
介護医療院の新設又は転換	1件
認知症グループホームの新設又は転換	5件

(3) 介護保険料への影響の試算

○施設整備による純粋影響額

- ・施設種別ごとに、施設整備による純粋な影響額を試算

※厚生労働省「見える化システム」による

○（参考）保険料設定におけるその他の要素

- ・国の制度改正として所得段階の多段階化が議論されており、現在、標準段階は9段階制のところ、13段階制となる見込み。
- ・第8期は、給付実績の総額が計画値を比較的大きく下回りコロナ禍による利用控え等が要因の一つと捉えているが、第9期は、コロナ禍による利用控えが一定程度解消されると見込まれるため、サービス利用量の上昇に伴い介護保険料の上昇が見込まれる。
- ・現在、国において介護報酬改定の審議が進んでおり、近年の顕著な物価上昇等を踏まえて、これまでよりも高い上昇率の報酬改定が予想される。

2 第1号保険料積算のしくみ（概要）

